

第3学年西組 音楽科学習指導案

学習指導者 溝渕 佳子

1 題材 「森の音楽をつくろう ～『ピーターとおおかみ』～」

2 題材について

(1) 目指す子供の姿

【互いに磨き合い、学び続ける子供の姿】

森の情景を豊かに表すために、見付けた音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージと関連付けて音楽をつくる。そして、互いに知覚・感受したことを交流しながら、つくった音楽を再考し、設定した次の課題も解決している。

知識・技能	学びに向かう力・人間性等	思考力・判断力・表現力等
音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さと関わらせて気付く。また、音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付ける。	進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしてしようとする。	音楽づくりについての知識を得たり生かしたりしながら、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。

本題材において、子供たちは『ピーターとおおかみ』で演奏される様々な楽器の音色や旋律の特徴、強弱などを基に、物語の情景を豊かに思い浮かべながら聴き味わっていく。この鑑賞を通して得た、音楽を形づくっている要素や音楽の仕組みなどの知識を生かして、自分が思い浮かべた森の情景を音楽で表していく。例えば、風の森の中で鳴く鳥を表そうと思った子供は、「リコーダーでレッシーと吹くと、かっこの鳴き声みたい」と音色や旋律とその働きを捉え、「森の中で親子のかっこの鳴いている様子を表したい」と自己のイメージと関連付けて、「レッシー、レッシー」とフレーズを繰り返すようなまとまりを意識した音楽をつくる。そして、つくった音楽をグループの友達と聴き合い、「レッシーと吹いているから、かっこみただね」「親子のかっこなら、二人で呼びかけ合うように吹いてみたらどうかな」「僕はきつつきが木をつつく音を表したいから、クラベスでコココンって鳴らしてみよう」「森には鳥がいっぱいいるから、かっこときつつきの音を重ねても面白そうだ」などと交流していく。交流を通して、呼応して演奏したり音を重ねて演奏したりすることのよさや面白さに気付いていく。さらに、自己のイメージを基に、「かっこばかり鳴くんじゃなくて、はじめは風が吹いて、中でかっこが呼びかけ合うように鳴いて、終わりは、また、風が吹くようにしよう」などとグループで話し合いながら、まとまりを意識した音楽をつくっていく。その過程で『風の森』だから、かっこやきつつきが鳴いているときも、風が吹いているように弱い音で鈴を鳴らしてみよう」と、思いや意図を膨らませながら強弱等の要素も意識して、つくった音楽を再考していく。このような活動を通して、音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付けていく。思い浮かべた情景に合わせて音楽をつくる面白さに気付いた子供たちは、「他の楽器で演奏したら、違う森の様子を表せそうだ」などと、次の課題も解決していこうとするだろう。

(2) 子供の実態

メタ認知に関する実態調査によると、35名中9名は自分の学びを途中で振り返ってメタ認知を働かせることに困難があると考えられる。また、この子供たちの多くは、他者と関わることに對して消極的であったり、戸惑いを見せたりする傾向がある。したがって、自分から他者に考えを伝えたり、他者の考えを進んで取り入れたりして、自分の考えを修正していくことは難しいと考えられる。ただ、Q-Uの結果からは、学級全体に支持的な雰囲気があり、グループでの活動が有効に作用することが期待できる。また、教科の特性に関する実態調査によると、情景に合わせて楽器を選択したり演奏方法を工夫したり

できると考えている子供が26名おり、本題材においても様々な楽器を使って表していくだろう。ただ、その中には、楽器を使ってどのように自分の思いを表せばよいか分からず不安を感じている子供もいることが分かっている。

(3) メタ認知を促す働きかけ

① 課題設定以前

子供たちのつくった音楽の仕上がり度合いを絵で表した森の案内図と、つくった音楽を図形で表した図形楽譜を用いて、どの程度情景を表せたかを振り返り、本時の課題を確認することで、前時の学びを基に、本時の課題設定の理由を表出することができるだろう。【森の案内図・図形楽譜】(4～7時間目)

② 課題解決中

自分たちの森の音楽を工夫するために、音楽の仕組みや要素を工夫した範奏や子供の演奏を録音した曲を聴く。それを聴いて感じたことや思い浮かべた情景となぜそう感じたのかを話し合う場を設定する。感受したことと知覚したことを関連付けて話し合う中で理由を比較し、共通点や相違点に気付いていく。そして、気付いていない要素や仕組みに気付き、その働きが生み出すよさを感じ取った子供は、気付いたよさを自分たちの音楽に取り入れて表したいと考えるだろう。【聴き耳タイム】(3～7時間目)

③ 課題解決後

習慣化してきた、前時と本時の演奏を比較して、思い浮かべた様子を表せたか、それはどうしてかという観点を基に、「呼びかけ合いや強弱を工夫したから様子が表せた」「友達の考えを聞いたから工夫できた」などと振り返る。それらを音楽での気付きと協働とで色分けした木の形のカードに書き、掲示していくことで、学び方のよさを可視化して振り返るようにする。【もりもりカード】(4～7時間目)

3 題材計画 (総時数 8時間)

『ピーターとおおかみ』の鑑賞で得た音楽づくりに必要な仕組みや要素を基に、まず全体で共通の森の音楽をつくり、学習の進め方について見通しをもった後、範奏を聴かせるなどしながらまとまりを意識した音楽に気付かせ、自分たちの森の演奏に生かしていくような題材構成にする。

次	学習の流れ及び主な子供の意識
第一	<p>①② 『ピーターとおおかみ』を聴いて、様子を思い浮かべよう</p> <p>『ピーターとおおかみ』を聴いて、それぞれの楽器が表す生き物を知り、その音色や旋律から情景を豊かに想像する。また、使われている音楽の仕組みや要素について気付いたことを話し合い図形楽譜にまとめる。</p>
第二	<p>③ 森の様子を音楽で表そう</p> <p>教科書の例を参考にしながら、全体で、キーボードやリコーダー、打楽器等で森の様子を表す音楽をつくる。その際、どのような音の重なりになっているか伝えられるように、図形楽譜を作成する。全体で演奏した後、もっと他の様子も表したいといった意見を取り上げ、次時の課題を設定する。</p> <p>④⑤ 自分たちの森を表そう</p> <p>何を、どの楽器で、どのように表すかを、楽器を鳴らしながら話し合った後、グループの図形楽譜を作成する。それを基に、自分たちのつくった森の音楽を練習し、グループごとに録音して思い浮かべた様子を表せているか確かめる。「もう少し工夫したい」等の発言から、次時の課題を設定する。</p>
第三	<p>⑥⑦ 自分たちの森の様子に合うように、もっと工夫しよう (本時 6/8)</p> <p>自分たちの思い浮かべた森に近づくために、呼びかけとこたえや強弱等の工夫を取り入れながら、つくった音楽を再考する。⑦は、前時出てきた課題について工夫する。はじめ、中、終わりといった音楽の構成を意識し、まとまりのある音楽をつくっていく。つくった音楽を録音して聴き、次時の課題を設定する。</p> <p>⑧ 「3西の森」発表会をしよう</p> <p>それぞれのグループが表す森の様子を思い浮かべながら、演奏を聴く。工夫した音楽の仕組みや要素を確認しながら、よさを伝え合う。他のグループの演奏を聴き、「他の楽器で演奏してみたい」や「別の様子も表してみたい」など、さらに工夫してみたいことを考えていく。</p>

4 本時の学習指導

(1) 目標

思い浮かべた森の情景を表すために、範奏を基にグループでどのように演奏を工夫するかを話し合い、音楽の仕組みや強弱等の音楽を形づくっている要素を工夫して音楽をつくっている。

(2) 学習指導過程

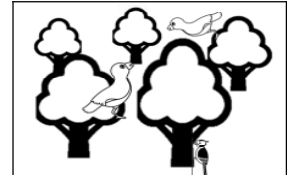
	学習活動	主な子供の意識
課題設定以前	1 前時を振り返り，学習課題を確認する。 【森の案内図・図形楽譜】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">前の時間は，自分たちの森の様子を表して演奏したね。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">川や生き物の音やリズムを考えたよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">もっと，自分たちの森の様子を工夫して表したいな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分たちの森の様子に合うように，もっと工夫しよう</div>
課題解決中	2 範奏を聴いて工夫する視点を明確にし，活動の見通しをもつ。 【聴き耳タイム】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">前の時間にした演奏では，何を表しているかはっきり伝わらなかったよ。どうすればいいのかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">範奏を聴くと森の中で鳴っているかえるの様子が思い浮かんだよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">呼びかけ合っているみたい。ギ ロの同じリズムが，何回も繰り返 返されていたから。 近くと遠くで鳴っているみたい。 1回目が強くて，2回目が弱い 音だったから。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">確かに，強弱があったから，近 くと遠くという感じもしたね。 強弱から大きいかえると小さい かえるも思い浮かべられるよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">呼びかけ合うように鳴らしたり，強弱を工夫して演奏したりすれば，もっと自分たちの思い浮かべた様子に近づきそうだよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">私たちは風が吹く森の中で，鳥が鳴っている様子を表したい。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">親子のかっこうが呼びかけ合っ ているみたいに，リコーダーを 交代で吹こう。 きつつきの音は，遠くで聴こえ ているみたいに弱く鳴らしてみ ようかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">1回目を強く，2回目を弱くす るともっと感じが出そうだよ。 かっこうが鳴いていない時に鳴 らし始めて，重ねると面白いね。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">鳥の声や音をいろいろに工夫して演奏すると感じが出てきたよ。 他にも工夫できそうだ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">風の音も工夫できそうだよ。鈴を，ずっと同じ速さじゃなくて， だんだん速くしてみたらどうかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">うまく工夫できたよ。録音して聴いてみよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">様子をうまく表せているよ。も う少し練習すれば，ばっちりだ。 風の音が聴こえるように，周り を弱くした方がよく伝わるね。</div>
課題解決後	4 前時の演奏と聴き比べて，本時の学びを振り返る。 【もりもりカード】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">前の時間と比べると，思い浮かべた様子に近づいてきたよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">強弱や呼びかけ合いを入れて工 夫したら，様子が表せたよ。 友達と話し合って工夫を考 えると，前より様子が表せたよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">次は，もっと練習して音を重ねるタイミングを合わせたり，楽器 を変えて他の動物を表してみたりしたいな。</div>

二日目
提案授業Ⅱ指導案

(3) 授業の詳細

前時までの子供の意識 学習活動1

子供たちは、これまでに作った音楽を図形で表した図形楽譜を用いて全体で共通の森の音楽をつくり、演奏してきた。音楽のつくり方についての見通しをもった後、6人程度のグループで自分たちの森のイメージを話し合い、思い浮かべた情景に合うように楽器を選択し、音色や旋律などを決めて音を重ねてきた。そして、グループごとに作成した図形楽譜を用いて演奏し、録音して聴くことで、思い浮かべた情景をどの程度表せたか確認してきた。前時の終末には、「もっと自分たちの森の様子に合うように工夫したい」という意識から、本時の課題を設定している。学習活動1では、森の絵に子供たちが思い浮かべた動物などを付け加えて表した森の案内図と図形楽譜を用いて、前時に思い浮かべた情景を表す工夫ができたかどうかを振り返る。それらを基に、前時にもっとできそうだと考えていたことを想起させ、学習課題を確認する。【森の案内図・図形楽譜】



【森の案内図】

学習活動2

課題を確認した後、もうすべて表せていると感じている子供や、どのように表せばよいか分からないという子供が見通しをもって工夫できるように、音楽の仕組みや要素を工夫した曲を聴く。それを聴いて「かえるが2匹、呼びかけ合って鳴いている感じがしたよ。だって、ギロで同じリズムが繰り返されていたから」などと感じたことや思い浮かべた情景となぜそう感じたのかを話し合う。【聴き耳タイム】そうすることで、呼びかけとこたえなどの音楽の仕組みや強弱などの要素を基に工夫していけばよいという視点を明確にもって、自分たちの音楽を振り返り、気付いたよさを自分たちの演奏に取り入れようとしていこう。

学習活動3

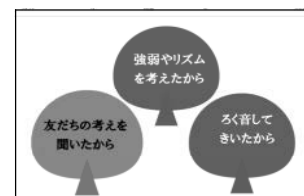
グループに分かれて、作成してきた図形楽譜を基に、音の重ね方について話し合う。「かっこうときつつきが一緒に鳴らしていたから、2羽の鳥が呼びかけ合うみたいにしたらどうかな。こんな感じで（リコーダーとクラベスで鳴らしてみる）」「僕は、かっこうが近くで鳴いているみたいに強く吹いて、遠くできつつきが木をつついていて弱く鳴らしたらいいと思うよ。ちょっとやってみて」などと、音の重ね方について話し合い、音楽をつくっていく。子供たちは、どのような音の重なりにも聴こえるか、確認したいと思いはじめよう。そこで、簡単に録音、再生できるタブレットを使い、繰り返し自分たちの演奏を録音して聴き、思いに合うように表せているかを確認していく。「交代でリコーダーを吹いたから、鳥の様子はよく表せているね。私たちは風の森だから、もっと風の音を入れてもいいんじゃないかな」「そうだね、風がサーッと吹く感じで、鈴を少し速めに鳴らしてみようかな」などと、自分の工夫のよさや、もっと工夫できそうなことに気づき、自分の演奏をよりよくしていこうとするだろう。【聴き耳タイム】

風の森					
	1	2	3	4	5
かっこう1	○	。		○	。
かっこう2		○	。		○
きつつき		
風	はやく	はやく			はやく

【音の重ね方を表した図形楽譜】

学習活動4

授業の終末に、前時の演奏と本時の演奏を聴き比べて思い浮かべた様子を表せたか、それはどうしてかという観点で振り返り、ワークシートに書き込む。【もりもりカード】その中で、「呼びかけ合いや強弱を工夫したから」「○○さんが、かっこうときつつきで呼びかけ合うみたいにしたらと言ってくれたから」などと学び方のよさが表出されるだろう。表出された意見を全体で共有し、カードに書いて掲示していくことで学び方のよさを可視化し、表現を工夫する際に生かしていけるようにする。



【学び方のよさの可視化】

(4) 評価

範奏を基にグループでどのように演奏を工夫するかを話し合い、自分たちの思い浮かべた森の情景に合うように、音楽の仕組みや強弱等の要素を取り入れながら、工夫して音楽をつくっている。

【方法：発言・図形楽譜・録音した演奏・もりもりカード】